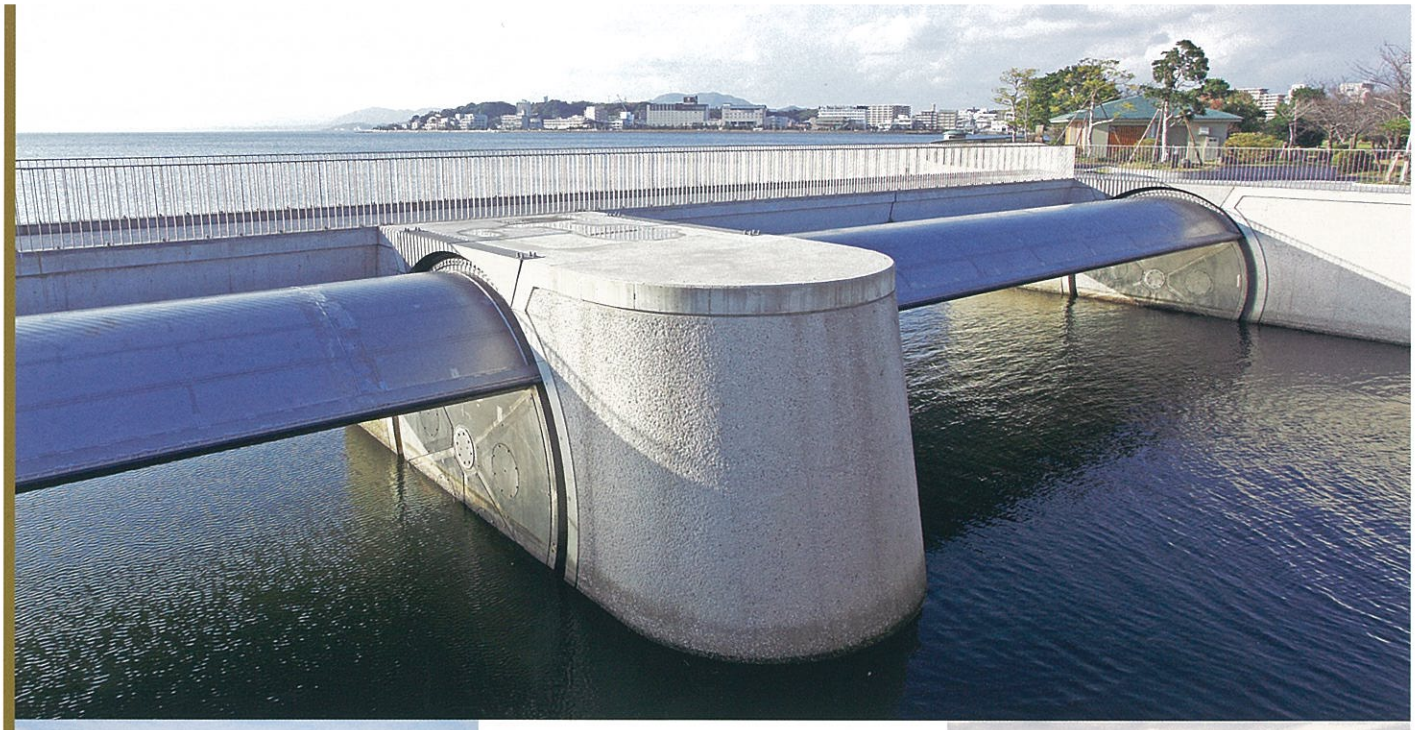

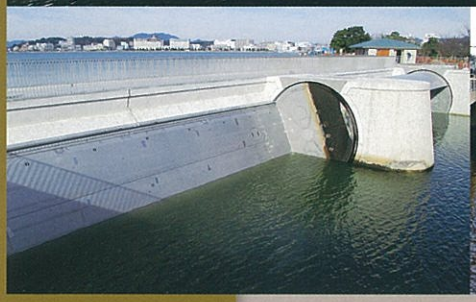

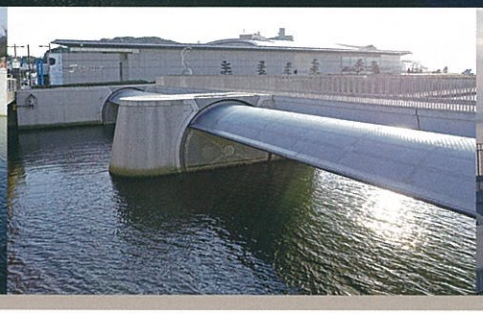

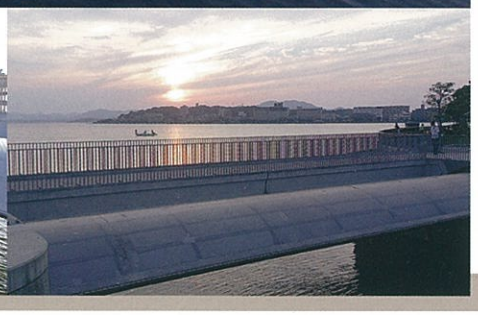

大賞

天神川水門

松江市袖師町～灘町

今年で23回目を迎えるしまね景観賞において土木施設部門から初めての大賞受賞。徒歩で宍道湖大橋を渡り、しばらく歩いて島根県立美術館にたどり着くと、その途中に「こんなところに、水門が」と、誰も気がつかないのでは。一般的な水門の形式は、上下に動く構造からして一見してわかるが、天神川水門ではライジングセクターゲートが採用され、円筒形のゲートの回転によって宍道湖の水位上昇の影響を受けない仕組みになっている。この形式の水門は山陰では最初の試みである。水門の高さを低く抑え、宍道湖側に管理橋を設置することにより、水辺利用者にとって宍道湖の新たな視点場が創られ、管理橋からは岸公園や白潟公園の親水護岸や宍道湖のすばらしい風景を見渡すことができる。また、水門操作の管理棟は従来のものとは全く発想が異なり、一見すると一戸建住宅のように見え、色彩や素材等、周辺の景観との調和に配慮されている。このように天神川水門は大きな土木構造物であるにもかかわらず、気が付かないくらい見事なまでに周辺の景観に溶け込んでおり、長きに渡り住民の安全を守ってくれることでしょう。

（荒尾慎司）

〈事業主体〉 国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所
〈設 計 者〉 いであ株式会社、基礎地盤コンサルタンツ株式会社、株式会社シマダ技術コンサルタント
〈施 工 者〉 出雲土建株式会社、松江土建株式会社、株式会社IHIインフラシステム、三菱電機システムサービス株式会社、サンベ電気株式会社
〈概　　要〉 一般的な上下に動く水門ではなく、ライジングセクターゲートという円筒形のゲートの回転による水門。
高さを低く抑えており、通りかかっても気が付かないくらい周辺の景観に溶け込んでいる。
管理棟も周辺の景観との調和に配慮されており、宍道湖が眺められるようベンチも設置。

選考総評

しまね景観賞審査委員会
委員長
藤岡　大拙

第23回を迎えた「しまね景観賞」の応募総数は117通あり、県内はもとより観光で訪れた他県の方からの応募もあり、この賞が広く受け入れられていることがうかがえる。

選考に当たっては、まず書類審査で21件を選定し、その後、現地審査と最終審査会を行い慎重に審査し、5部門11件の建造物や活動等を選定した。

大賞は『天神川水門』である。この水門は従来の上下に動く構造と違い、円筒形のゲートの回転による形式で高さを低く抑えており、通りかかっても気が付かないくらい見事に隣接する県立美術館、宍道湖岸などの周辺の景観に溶け込んでいる点を評価した。

優秀賞は5件である。「まち・みどり・活動部門」の『シビックセンターゾーン』は、江津市中心部の一角に位置し、公営住宅等の施設に地元産の石州赤瓦を活用することにより、魅力ある赤瓦景観の街並みづくりを評価した。「公共建築物部門」からは、県立図書館に合わせて壁を斜め45度にすることで、松江城方向の視線をさえぎることなく周辺の景観と見事に一体化した『島根県立図書館駐輪場』と、寄宿舎の白い外壁と木構造のアプローチデッキの調和が図られていて、前面に広がる自然景観の中に溶け込んでいる『島根県立飯南高校寄宿舎』を選んだ。「民間建築物部門」の『大森座』は、郵便局などとして長年使われて老朽化した建物を、日本一小さなオペラハウスとして用途を変え復元され、建物のみならず裏の竹林や隣家の外壁まで景観に配慮し整備した点を評価した。「屋外広告物・その他部門」の『玉造温泉看板』は、イラストを添えた小さな木製の案内看板で、若い世代の方の発案によるもので、周囲の景観にも合っている点を評価した。

奨励賞は5件である。「まち・みどり・活動部門」からは、色とりどりのチューリップの華麗な風景が楽しめる『伯太チューリップ』と、土木遺産となった未完成の鉄道を地区住民が次世代へ伝えようと、雑木の伐採や草刈などを行っている『まぼろしの広浜鉄道「今福線」』を選んだ。「土木施設部門」からは、高津川にかかる白い5連アーチのレトロ感と近代的な趣きのある『土木遺産「高津川に架かる高角橋」』を選んだ。「公共建築物部門」からは、由緒ある村上家の資料館として、湧水を引いた庭園の池など景観に配慮した『村上家資料館』を選んだ。「民間建築物部門」からは、石見地方の典型的な農家住宅で季節毎の花など周囲の景観と調和している『旧道面家住宅』を選んだ。

今後も、この「しまね景観賞」が魅力あふれる島根の景観づくりに寄与するとともに、さらに多くの県民、事業者の皆さんがよりよい景観づくりに一層積極的に取り組まれ、生活と文化の豊かさを実感できる県土が築かれていくことを期待してやまない。

平成28年2月